

ベリ - ・ ホ ッ ト あ つ い



今年の夏は暑い。暑い暑いと弱音を吐くな。暑さに負けぬ熱い心で立ち向かえ。心だけじゃなく、たまには脳みその回線が焼け切れるほど頭も厚くしろ。

注：上の文章の中に、一箇所だけ「あつい」の漢字の使い方が間違っているところがあります。

第27号

発行所 東京都中野区中央5丁目1番2号西田ビル4階 〒164-0011 からす新聞本社 電話03-3382-5963 ©からす新聞本社
からすホームページ <http://www.go-karasu.com/> 投書・お問い合わせのE-mail : colors@go-karasu.com

我が家のごく近く近所に、屋外でのんびりと過ごせる空間ができた。珈琲を飲んだり、グラスを傾けたり。ビザを頼張ったり、焼き鳥に齧りついたり。藝術論を交わしたり、馬鹿話に興じたり。瞑目して考えたり、空を見上げたり。そこは、脳道に逸れがちな人間が集う、言ってみれば、嘗てのサン・ジェルマン・デ・プレの気の利いたカフェのような……うーむ、これはいくら何でも強引に過ぎるだろう。

兎にも角にも、その、半ばはプライベートな、半ばはパブリックな、微妙な空間で時を過ごす機会が増えている。実は、この原稿の何割かを書いているのもそこである。御存知のように、私は決してアウトドア派ではない。いや、寧ろ、インドア派、いやいや、より正確に言うならば、引き籠もり症候群の一員だと言っている。けれども、そんな私をさえ、惹きつける何かがそこにはあるようだ。

今日の紙面から

- 二面(IT面) コンピューターの脳みそ
- 三面(食面) 忍のフィリピンを食い尽くせ
- 四面(からすライブラリー) からす新聞おすすめの本・CD・映画などを紹介します。
- 五面(ヤンヒポ) ニューヨークってたって
- 六面(芸術面) レイズ・ギャラリー

が過る。早くも酔いがまわってきたようである。昼日中から結構な身分である、我ながら。私たちは雲ではない。当たり前だ。四囲を壁に囲まれた場所に閉じ込められているような場合は例外として、人間は自らの意志で自由に行動できる存在である。強い北風が吹いてきたら、それに逆らって歩んでゆくことは不可能ではないのだ、それを我々が望みさえすれば。環境を与えられるままに受け入れるのではなく、道具や火の使用、それを可能にする智慧を持って、自然に立ち向かうようになってからが人間の歴史の始まりなのだそうである。その是非はともかくも、そのようなことが教科書に書かれていた、というぼんやりとした記憶。そんな人間様という存在が、風が吹いてきたからといってふらふらと流されてしまうのは、如何がなものである。そんなことでは、何のための精神の自由だかわからなくなってしまうのではないか。けれども、その一方で、いつでも、どんなことに対しても、一〇〇パーセントの精神で立ち向かう必要があるのか否か、ということになると、そこに疑問符が残るのも、また、事実であろう。

からす新聞は学習塾カライズが母体となつて、世界に文化と芸術を発信すべく発行している新聞です。誰でも自由に参加できます(無茶じやない範囲で)。



(最終面に続く)

Masami.H の

#pragma IT(1)

『コンピュータの脳みそ』

第4回

気が付くと、この記事が掲載されるページに「IT面」なんて名前が付いています。以前はこんな名前のページはなかったような気がするのですが、なんだかちとだけ偉くなったような気分です。

ところで最近「IT」がなんとなくよく聞くけどこれって何もの？ コンピュータの脳みその話はちょっとお休み、夏休み特別企画！「ITってなあに？」という話を2回に分けてしてみたいと思います。今回だけで終わらせるつもりだったんだけど書き始めたら1回分で終わらなくなってしまっ

IT、Information Technology の略で、日本語では「情報技術」と呼ばれ、情報をどうにかする技の総称のようです。

もう少し掘り下げて「情報」とは何かということを考えてみます。「情報」とは「ある物事の事情についての知らせ(岩波国語辞典)ですが、現在では「情報」は資源のひとつであるとされています。ただし、石油や森林等の資源とはかなり違った性格を持っています。複製できること、そこら中に転がっていること、伝達・保管に必ず「入れ物」を必要とすることです。

複製に関しては「マス・コミュニケーション」がいい例です。春頃に北海道の有珠山が噴火したという話は皆さんご存知ですね？

このように「有珠山が噴火した」という誰かが拾ってきた「情報」は各地のテレビ局や新聞社にどんどんコピーされ、ついには誰もが持っている「情報」になりました。対して石油や森林はコピーしてみんなに行き渡らせるなんてことはできません。手軽に増やせれば「石油に代わるエネルギー資源を！」とか「森林を増やそう」なんて言われはしませんね。

石油は石油が埋まっているところを掘らなければ出てきませんが、情報はそこかしこから出てきます。「明日のテストは 〆のあたりが中心に出るらしい」立派な情報です。授業中に隣の席に手紙を回したりしている人はいませんか？そこに記される「おなかすい

たよー」というつぶやきだっで「情報」です。このように情報は探す気になればそこら中に転がっています。

鉄の材料になる鉄鉱石は野積みができます。誰かに渡す時でも、特に入れ物に入れなければ渡せないということはありません。捨てておいても、そのうち誰かに発見されて拾われるかもしれません。しかし、情報は必ず容器に入れておかなければなりません。それは人の記憶であったり、紙に記された文字であったり、鉄の円盤上の目に見えない粒だったりします。誰かに情報を渡す場合でもやはり紙なりなんりの情報を入れる容器が必要です。面と向かって直接伝える場合も「言葉」が容器。では容器が無くなってしまった場合 ~ 情報を知る人が亡くなった、情報が忘れ去られた、情報を記した紙が焼けた等したらどうなるか？情報は失われ、誰かに拾われることもありません。奈良県に船橋石という大昔に加工されたらしいという石がありますが、この石が何の目的でどのように使われていたのかについてはいろいろな説があります。これは「この石はこういうものだ」ということを知る人がいつの世にかいなくなってしまったために「情報」が失われた結果です。

ところで、資源はしばしば売り買いの対象にされます。情報も同様です。情報を詰め込んだ新聞・雑誌、あれは紙代やインク代だけではなく、情報の値段もちゃんと含まれています。資源を加工する商売や、資源の輸出入も日常的に行われていますが、情報もこれと同様。以前、北海道東方沖で大きな地震が発生したとき、ロシアに高度な地震観測技術が無かったため、千島列島で津波の被害を受けたそうです。それ以来、この近辺で大きな地震が起こったとき、日本が地震の発生場所/規模を測定し(資源の掘り出し)そこから津波が起こるかどうかを予測して(資源の加工)ロシアに提供する(資源の輸出)体制が作られたとか。

そして、情報からもゴミが出ます。新聞を取っているけど、テレビ欄しか見ないという人、いるでしょ。この場合はテレビ欄以外の面に詰め込まれた情報は受け取られずに古紙回収に直行。これが情報のゴミ。こういう人は毎日毎日大量に情報のゴミを出していることになりましたが、ばいばい捨てても環境汚染をしないのが他のゴミと違うところですね。もちろん情報の入れ物の方はそこらにばいばい捨てられては困りますけど。一方では捨てられる前からゴミみたいな情報ってのもありますね。二セ情報や役立たずの情報、どうでもいい情報等です。

次回に続く

中国料理

コウ テン エン
廣天園

ユウ コウ エン
裕香園

好吃好香

Ken-ichi Shinozaki, architect



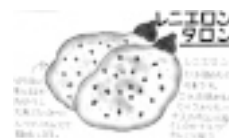
4-3-44-1 Narita-higashi, Suginami-ku,
 Tokyo 166-0015,

Voice : +81-3-3220-0644

Facsimile : +81-3-3220-0640;

e-mail: geta-s@t3.rim.or.jp

篠崎健一アトリエ

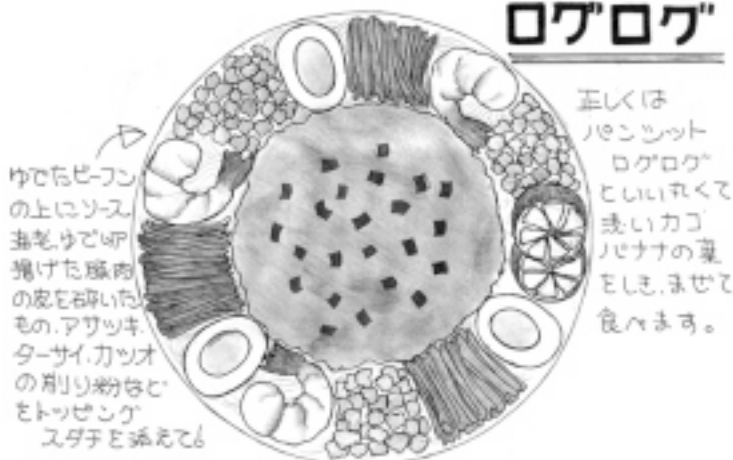


世界をくいつくせ!

夏ですね! アア良かった。フィリピン前編は春に書いていて、何だか季節感ないな~!と思われたのではと少し反省していましたが、アラッ、いつの間にかフフ・夏がきてるぞ~! 思惑通り!(嘘)

ところで、今回はフィリピンの食文化に多大な影響を与えた、中国・スペイン・アメリカの、というか、影響を与えまくられてるフィリピンのお話でした。そう、大きくはこの3つの国ですが、そのほか、フィリピンと共にスペインの植民地にあったメキシコの影響も受けているそうですし、日本も少なからず影響を与えているそうです。さて、皆さんはフィリピン料理と聞いて何を思い浮かべますか? 美味しく豊富なシーフード? トロピカルなフルーツ、特にお馴染みフィリピン・バナナ。それから、ナタデココ。ナタデココ? これは私の周りの反応ですが・・・そうなんです、あまりというか、ほとんど馴染みがないかもしれません。鶏肉や豚肉を(酢・醤油・ローリエ・大蒜・胡椒)などで煮る「アドボ」は比較的知られてるかもしれませんが。私自身も随分前に数回お店に食事に行った事があるきりですし、フィリピンに行ったことはないの、もっぱらレシピをみて作って楽しんでます。日本でフィリピンらしい料理として結構有名なものとして、先に書いたアドボは簡単で美味しくおかずやおつまみに合う、おすすりできる料理です。その他、鯛などの白身魚を野菜と梅干、そして米のとぎ汁で作る、日本で言えば味噌汁的な「シニガン」、海老をトマトとココナッツ・ミルク、酢で煮る「ヒーブンギザド」、魚のピネガー煮の「バクシウ・ナ・イスダ」、生魚を酢でしめた「キニラウ」、甘辛いベーコン風(?)豚肉煮物の「トシーノ」に、前編ではイラストもどきで書いた春巻きの「ルンピア」、結構メキシコ入ってるスパイシーなシチューの「カルデレータ」はめずらしくピリピリ料理。そして海老、肉、魚、野菜を使い、海老で作ったソースを麺にかけていただく「ログログ」に、美味しい美味し~い! オックステールのピーナッツソース煮の「カレカレ」と、なかなか良い感じです(ネーミングがなかなか南国で楽しい

ログログ



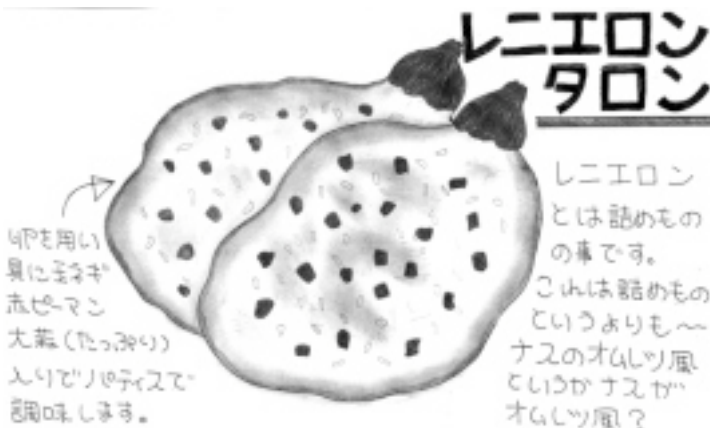
し)。私的にはとても美味しく満足しているのですが、チョット悩みとしては、フィリピンでは魚貝が豊富でとても安く、どちらかという肉の方が御馳走的な物らしいのですが、東京では他はわかりませんが魚貝の方が高いので、作る度に御馳走になってしまう事(肉は豚や鶏なども使う事が多いので高い黒豚や地鶏などをつかわなければ全然安いのです)。それから、あちらの素材が入りにくい事。近頃では大分手に入りやすくなりましたが、でも一般的には少~し根性と思い入れがないと困難かも知れませんが、アッ、でも、もちろん安く上がる料理は沢山ありますし、日本で手に入る食材で作れる料理だっていくらでもあるので、もし作ってみようかな?なんて人も大丈夫です。

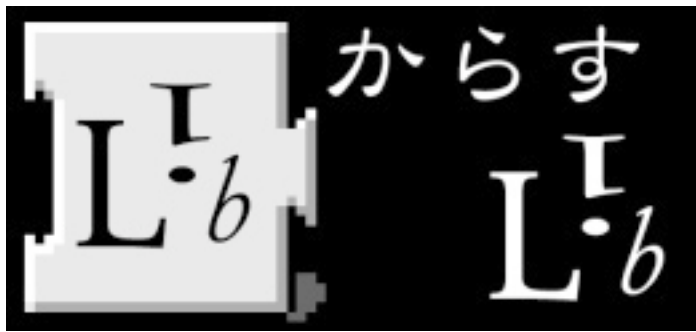
フィリピン料理は、それこそいろいろな国に影響は受けているけれど、それを風土に合った形で消化し、かつ、調理法も合理的に変化しているように思います。酸味をきかせた料理が多いのと(日本の酢と違い酸味の円やかなココナッツピネガー使用)南国のわりに煮込みが多いのは特徴としても、他のアジアに比べ物にならないくらいシンプルです(因みに酸味を利かせる料理が多いのは食品を持たせる為の知恵として、スペイン人のご指導らしい)

今回はフィリピン料理の背景、そして確立までの軌跡(大嘘)についてでしたが、今回は少しでも興味をもってもらえたら楽しいなと思いい、こういう感じで...。ますます軽々爆発かも。

様々な国に影響を受け、独自の食文化を築きながらも、なんだかゴチャマゼで、けれど体に良さそうな、お祭り好きな南国の料理です(冬場は嫌だな)。夏は鰻と焼肉よー!な方も、麵類しか入りませんな方も、アイス信者も勇気を出して(?)、いかがですか? 日本人の味覚にも合いますし、ちょっとお勧めなんですから!

さてさて、そんなこんなフィリピン料理、次号の怒濤の後編に続きます。





『Up She Flew』Junji Shirota & Dana Lyn
Junji Shirota & Dana Lyn、2000年、JS104



ちょっとした偶然の連なりでカリフォルニアから、私のもとに届いたアルバム。演じられているのは、台湾系のアメリカ女性とベテラン日本人ギタリストによる、ケルトとブルーグラスが混成したようなサウンド。不思議な組み合わせだと言えなくもないだろう。

ダナ・リンが紡ぎ出すメロディーは、喜びや哀しみを力任せにぶちまけるのではなく、エネルギーを内包して慎ましやかに響く。主に、フィドルとギターだけで構成されるサウンドは、どんな時も清涼感を失うことがない。心の中を爽やかな風が吹く。夏を乗り越えるのに、随分と役に立ちそうだ。

(全太)



ハンナとその姉妹

1986年公開(アメリカ)

ビデオ・DVD：ピームエンタテインメント

監督・脚本：ウディ・アレン

出演：ウディ・アレン、ミア・フォロー、ダイアン・ウィースト、パーバ

ラ・ハーシー、マイケル・ケイン、キャリー・フィッシャー

制作総指揮：ジャック・ロリンズ、チャールズ・H・ジョフィ

制作：ロバート・グリーンハット

配給：オリオン・ピクチャーズ/ワーナー・ブラザーズ

ハンナ(ミア・フォロー)、ホリー(ダイアン・ウィースト)、リー(パーバラ・ハーシー)の三姉妹は、女優だった母の血を受け継ぎ、それぞれが有名ではないが女優をしている。長女のハンナは、ミッキー(ウディ・アレン)との離婚を経て、現在はエリオット(マイケル・ケイン)と夫婦生活を送っている。だが、エリオットはハンナの妹リーの魅力に引き寄せられ、密会を重ねる。薬物中毒だった過去をもつホリーは、舞台のオーディションに応募しては落とされる日々だ。

一方、ハンナの最初の夫ミッキーはテレビ局のディレクターとして精力的に活躍しているが、ある日、聴覚障害を訴え医者へ。脳腫瘍の疑いもあると言われ絶望するが、検査の結果、シロであることが判明する。ミッキーは喜び勇んで病院を飛び出す。直後に、「いずれはみんな死ぬんだ。今日、明日は無事かもしれない。でもいつかは必ず死ぬ。人生は無意味じゃないか?」という問いに突き当たる。ミッキーは自殺未遂を起こすが、

長距離射撃術のススメ



『ダーティホワイトボーイズ(Dirty White Boys)』(公手成幸訳)

扶桑社ミステリー、1997年 ISBN4-594-02200-6

『ブラックライト(Black Light)』(公手成幸訳)

扶桑社ミステリー、1998年 ISBN4-594-02492-0/4-594-02493-9

『極大射程(Point of Impact)』(佐藤和彦訳)

新潮文庫、1999年 ISBN4-10-228605-5/4-10-228606-3

『狩りのとき(Time to Hunt)』(公手成幸訳)

扶桑社ミステリー、1999年 ISBN4-594-02773-3/4-594-02774-1

ここ最近、狩りに出たくてウズウズしている時ステイヴン・ハンター(Stephen Hunter)の『極大射程』を読んだ。スタートレックのススメでも書いたが、それぞれの短編は簡潔にまとまり内容も受け手を十分に楽しませてくれ、それでいて全体を通しての一貫性や関連性の緻密さを楽しめる作品は優秀だと思う。そんな世界を創造できる一人だろう。方向としては、トム・クランシーと似た米右翼的作家で、アメリカ合衆国が世界の警察であるという部分には根本的に疑いを持っていない可能性が高い。しかし、物語を創造する場合には必ずしもそれがマイナスにはならないと思える節が有るのも事実だ。

4部作の基幹はボブ・リー・スワガーという米海兵隊の退役軍人でベトナム戦争に於て非凡な活躍した人物にまつわるもの。彼は本物のスナイパーだったのだ。

先に短編でもと書いたが、それぞれは小説として十分長編と呼べるページ数で書かれており、どれも前半は少しくどい気がするが、後半に入ると怒濤のごとく展開していき、一気に盛り上がりを見せてくれる。文学的価値はさておき、スナイパーを夢見ながら十分楽しめる作品だろう。

先に短編でもと書いたが、それぞれは小説として十分長編と呼べるページ数で書かれており、どれも前半は少しくどい気がするが、後半に入ると怒濤のごとく展開していき、一気に盛り上がりを見せてくれる。文学的価値はさておき、スナイパーを夢見ながら十分楽しめる作品だろう。

(小張寅蔵)



落ち着かないまま街を歩き、心を静めるために映画館に入る。そこではミッキーが子供の頃から好きだったマルクス兄弟の映画が上映されている。そしてミッキーは…

『ハンナとその姉妹』は、『マンハッタン』『アニー・ホール』など他の代表的なウディ・アレン映画と同様、舞台はニューヨーク・マンハッタン、バックにはスタンダード・ジャズが効果的に使われている。三姉妹が送る生活は決して劇的なものではない。エゴイズム、自信の欠如、嫉妬や浮気、反発など、誰もが抱えている問題を、三姉妹とその他の人物も抱えながら生きている。そして、こうして「特別」ではない人々が織りなす物語を通じて、この映画を観る者は、人生における愛の大切さ、というメッセージを受け取る。

ウディ・アレンの映画にはほとんどハズレがないが、本作品は、プロット、登場人物たちのキャラクター設定、軽妙な会話、フィルム全体を流れるトーン、等々、総合的に見て最上のものの1つである。本当に素晴らしい。多くの人に観ていただきたい傑作だ。

(りんご)



ヤンヒポのN.Y.ってって



昨年引き続きN.Y.C.へ来た。今回は車を借りて行動範囲を広げてみたのだ。最大の興味はセントラルパーク北側に位置するハーレムの探索でかけてみよう。

一般的にニューヨークと言われているがいわゆる経済の中心地としてのニューヨークは全てマンハッタン島の事をさす。日本でいえばニューヨークというくりは東京というくりと同じだろう。東京といっても丸の内もあれば多摩もある。その丸の内にあたる所がマンハッタンなのだ。全長約10マイル(16km)幅は3マイル(5km)に満たない細長い島の上に世界経済の中心ウォール街、ミュージカルで有名なブロードウェイ、新年にはイモ洗い状態のタイムズスクエア、超高層ビルが密集した摩天楼、その名の通り中心にあり広大な緑地を供給しているセントラルパークがひしめきあっている。道路はほぼ完全な碁盤の目になっていて、東西方向に南から1st、北の220st(1丁目から220丁目)まで、南北には東から1AV、西のはじ12AV(1番街から12番街、実際はFirst AvenueからTwelfth Aveという言い方)までになっている。例えばヤンヒポの宿泊地は7AVと55stの角になる。また、車の進行はほぼ一方通行になっている。7AVは南向き、8AVは北向き55stは西向き、56stは東向きになっている。また、5番街から8番街、59丁目から110丁目に囲まれた所がセントラルパークだ。そのセントラルパークには近代美術館やメトロポリタン美術

館、自然史博物館などもあり、TREX(ティラノザウルス)の完全な骨格化石も展示してある。

さて、ここまではどの旅行ガイドブックにも載っているが、ヤンヒポなのだから別な角度でマンハッタンをのぞいてみよう。大勢の日本人の中に、米国の都会は犯罪が多発して治安が大変悪い印象があるだろう。その象徴というハーレム街に違いない。そんなうま味のある所を見逃す手は無い。早速、車に乗って出かけてみた。先にも書いたがセントラルパークの北側に位置していて、空から見ると超高層ビル群の中にあり、そこだけ落ち込んだ低層住宅の広がる地域がハーレムだ。確かに南からセントラルパークを過ぎたあたりから高い建物が無くなり、空が広く見えるようになってくる。そのうち、右を見ても左を見ても前を見ても後ろを見ても肌のクロイ奴等しか見えなくなる。確かに異様な雰囲気だ。アフリカへ旅行するとこんな感じなのだろうか。しかし、そこで勘違いしてはいけない。周りに×××しかないとはいえず、そこがすぐに治安の悪い所ではない。確かに異様な雰囲気だし、目つきの悪い×××は沢山いるが、あくまでも生まれつきなのかもしれない。そういう顔立ちなだけだ。治安の良し悪しを判断する上で基準になるのはその場所の生活水準だろう。早い話、住民の着衣や持ち物、早いのは車の程度を見るのが一番。洋服やアクセサリーは買ってもそれなりの車を購入維持するのは有る程度の経済状態でないといけない。しかし、当初の予想に反してハーレムには貧困的な要素は一切見当たらない。本当に×××しかないが、車は中程度以上のグレードで新しいものばかり。歩いている住人も下げていた袋をみてもGAPやCK(カルバンクライン)の袋を下げていた。もちろん裕福とまでは行かないが、東洋からの観光客が入り込んでみても身ぐるみはがれるという雰囲気は全くない。そういう意



味では、L.A.のサウスセントラル(L.A.暴動のあった地域)の方が何千倍もスリルを味わえる。もちろん表面からしか見ていないので、本当に安全かどうかは解らないが、今までの経験から当初思っていたほどではない事は間違いない。正直少し残念である。ただ、勘違いしてはいけないのが、ヤンヒポが思っていたほどではないにしても、この国には銃器の所持が許されているのだから日本の常識とは比べられない事は言うまでもない。

先程、どこを見ても×××ばかりという話をしたが、そればかりではない。マンハッタン南に位置するチャイナタウンで美味しい中華料理を食べたが、そこに行くと何処を見ても東洋人しかいない。まるで米国にいるという気が一切しないのだ。商店を見ても漢字しかないし、英語もほとんど聞こえてこない。まるで中国にいるようだ。同じ国、それもごく狭い範囲に黒人しかいない地域、中国人しかいない地域が同じ国民として住んでいる米国とは日本人からすると大変不思議な光景に映る。しかし、それが紛れもないアメリカ合衆国の姿なのだ。彼らも全てアメリカ人と名乗るのだろう。では、いったいアメリカ人とはなんぞや。

(不適切な表現がありましたので、一部、伏せ字を施しました...からす新聞編集部)



Rei's Gallerly



暑中見舞い

「夏」と聞くだけで、私の中のやる気度がダウンする。
朝、起きるとあまりのだるさに、「ここで起きたらしぬよ」と、いう気持ちで布団から這い上がるのが、何よりもつらい。でも、夏が嫌いだ、嫌だ！と言っても来てしまったものは、しょがない。と、言うわけで涼しくなるアイテムで今回は、作品にした。日本には、うれしいことに、電気を使わず涼む方法が、沢山ある。うちわ、風鈴、簾、に透明な鉢で、泳ぐ金魚。どれも、芸術的なデザインが施されて、夏嫌いな私でも、それらを手にする、(夏って素敵)と、思っちゃう。でも、どうしたって夏は暑いさく-ラ-の効いた部屋で、imacと過ごすのが一番だな。
岩間玲(rei@go-karasu.com)

月したり太陽したり猫したり

模擬試験その八

問題1 次の英文を訳しなさい。

I was mooning around.

ん?' moon 'って「月」のこと?'俺は月してた?'なんだそれ?

辞書で moon 'を引くと、動詞として moon around 'で「あてどなくさまよう」とあります。そんなわけで正解は、

「僕はさまよい歩いていた」

ということになります。こんなふうに、名詞として覚えた英単語が、実は動詞としても使われる、ということは良くあることです。日本語で、名詞の後に「する」を付けて動詞にするのに良く似ています。たとえばこんなやつ。

「お茶しない?」

ちなみに' tea 'を引いてみると、やっぱりあった。「お茶を飲む」。という事は、「お茶しない?」は

“ Shall we tea? ”とが“ Let's tea. ”

でもいいということです。

この要領で、さらに問題を続けてみます。月があるなら太陽は?

問題2 次の英文を訳しなさい。

I like to sun.

' sun 'は「日なたぼっこする」なので、正解は、

「わたし日なたぼっこするのが好き」

部屋の中を見回してみますと、当然ながら物がたくさんあります。どれにも名前がついています。さて、どれにしようかな、と思ったまさにその瞬間、ねずみが畳の上をちょろちょろしているではないか。

問題3 次の英文を訳しなさい。

Don't mouse me.

もちろん「僕をネズミしないで」じゃありません。「mouse 'には「襲う」「狩る」という意味があるのでした。

「僕を襲わないで」

ついでに猫も見ときましょう。

問題4 次の英文を訳しなさい。

Don't cat me, mademoiselle.

こりゃ、難しいですな。私も辞書見て初めて知りました。正解は、「僕を鞭で打たないで、マドモアゼル」
どんな状況なのでしょうな。

どうやらねずみの被害は冷蔵庫の中までは及んでいないらしい。のどが渴いたんで、牛乳を取り出して飲んでると、テレビでは例の中毒話。

問題5 次の英文を訳しなさい。

Marilyn milks her cows every morning.

これは分かりやすいんじゃないでしょうか。
「マリリンは毎朝牛の乳搾りをします」

搾り取るのは、ミルクに限りません。

問題6 次の英文を訳しなさい。

Marilyn, don't milk money from your friend.

「マリリン、友だちからカツアゲしちゃう駄目でしょ」
だめです。やめなさい、マリリン。

牛乳が切れたので自転車に乗って買いに行こう。

問題7 次の英文を訳しなさい。

I biked to Hokkaido.

これは簡単。
「僕は自転車で北海道に行った」

ちなみに、僕の自転車の名前は「ヘラクレス」。不死を得るために12の大仕事をやってのけたギリシャ神話の英雄だ。ならば、

I will hercules some day.

で、「いつかでっかい仕事をやってやるぜ」とかそんなふうになるのかと言えば、残念ながら' hercules 'は動詞にはならないのでありました。

以上のようなわけで、今まで名詞だと思っていた単語が動詞にもなるっていう例は辞書にいくらかも載っています。さがしてると、けっこう楽しいですよ。(望月)



アクアネット
Let's mind the harbour!
湊文社
SOBUNSHA

交和パレイユ
Kowa Pareille
祝福の宴の演出を
してみないか。
03-3371-8264

中山歯科クリニック
診療時間AM9:00 ~ PM9:00
水曜・土曜AM9:00 ~ PM6:00
休診日・祭日
03-3381-1109

松本と話そう。ピン、ポン、パン

ここで、ちょっと考えてみよう。ニュースとは何なのか？

オレらはテレビや新聞からたれ流されることを誰が決めるでもなく勝手に大切な重要なものだと思い込んで、知らず知らずのうちにそのこと中心に世の中が回ってると思っていやしないか？ そうだとすれば見事にマスメディアという大企業体であり実はとことんまで保守的な連中に洗脳されているということになる。

本日、7/18、23:30過ぎの某民放のニュース番組。頭から続けて殺人のもの。母親が子供に保険金を掛けて殺し、、、だの17歳の父親が31歳の妻と共に自分達の乳児を殺害し、、、こういったニュースが4つ。やっと5つ目に来たのが森とかいう総理大臣の、サミットに対する思い。なんだよこれは、嫌がらせなのかとさえ思った。そして実際なんか暗い気分にもなっている。がここでそうなれば奴らの、つまりメディアの側の思うツボ。心のもっと本質的な部分を仕切っている部分に理性と意志の力でギアを入れ直す。そしてその洗脳から逃れる。(とはいえ、ほんとと奴らにしてみればほんとにパッチリの時間帯にやってるなど思う。その時間帯は仕事から戻って来て、それこそ心のよそ行きの鎧を脱ぎ、ほとんど無防備の状態にいる、思考力が最も低下している頃なのである。)

もしここでうまい具合にその洗脳にはまったとしよう。そうするとどのような状態に陥っていくか。言うまでもない。今の世の中はとんでもない方向に進んでいっていると思うだろう。こんなに酷いことだらけの世の中になってしまったのかと落胆し、怒り、それこそ睡眠不足になったり、インポテンツになったりするかもしれない。すると明日の朝はどんな気分で見覚め、一日は始まるだろうか？ もちろん、ネガティブな状

態で始まる。一旦、ネガになるとなかなかポジにはなりにくい。ネガになるとよりネガなことに向かうようになる。するとその後、その人の昼間はまるで掃除機の先っぽがゴミを吸い寄せるように、ろくでもないことばかりを自らで招くことになる。そうすると一日は台なしになり、ゴミをすいよせたままの重たい心と体を引きずって家に帰ることになる。そしてテレビを付けたらまた相変わらずの酷いニュースの連続。そして次にあるのは前夜よりも酷い睡眠不足であったりインポテンツであったり。こうなるともう先は見えてる。感覚は麻痺し、ちょっとやそつとのことでは反応しなくなりより強い刺激が必要になってくる。そうすると、センセーショナルなニュースにより飛びつくようになり、一方でそのようなものを流すニュース番組は視聴率を上げ、よりいいスポンサーが付くようになりテレビ局の収益は上がる、ということになる。いや、もう既になっている。このカラクリでもう動いている。

世の中酷いもんだなんてブツブツつぶやいてる連中。気付けよ、いい加減。(少なくともカラースのよい子のみんなは。)ハメられてるんだって。

ニュースは自分のためのニュースである。より自分が幸福であるための情報であるはずである。ならば自分を主体として集めるものであるはずである。幸福が与えられるものでないのと同じように。だれかに幸福を与えてもらうようになるとそれはもうそいつ自身としての存在はないも同然。そう、麻原にすぎたオウム教徒やヒトラーにすぎた半世紀前のドイツ人、あるいは天皇や軍部にすぎた、ある時期の我々の祖父や祖母たちのように。

要は、ニュースが与えられるようになったらもうそいつは終わりである。なあ、ハロルド。

All We Need Is Love

(一面の続き)

だ、その風を吹かせたのは、神か、偶然か、運命か、受け取り方は人それぞれであろうけれど。
例えば、「カラース」というより、その前身の「シアス」と言つべきか)設立の経緯だってそうだったし、前述の屋外空間の出現だって、南西の方角からひよんな風が吹いてきたことから始まった話である。

一秒一秒の連続が人生であると考え、決断という行為は意外に難しい。AかBか決めかねる状況は多々生じる。どちらも捨て難い魅力がある、あるいは、どちらも堪え難い不快を齎す、そんな苦渋の選択を迫られる瞬間は誰にでもあるだろう。しかも、立ち止まって考えるだけの時間の余裕がない。時間をかけても考えが纏まらない。そんなことだつてあるだろう。そんな時には、ピュロンのように判断を中止して、吹いてきた風に身を任せればいい。自分ではどうにも決めかねる瞬間、他に何ができると言うのだろうか。こんな言い草は、私らしくないだろうか。なるほど、そうかもしれない。けれども、私の心の中では、今、そんな風が吹いているのだ。

つい先達で、ある知人が忽然と姿を消した。もともと精神的にも経済的にも、決して景気の良い方ではなかった。いや、激しい不景気の中、頻々と打ちのめされながら、どうにかこうにかやつこのことで歩を進めていた、というように具合が良かったろう。そんな彼女のもとに、一体、どんな風が吹いてきたのだろうか。わからない。確かなことは、行方が杳として知れぬこと、ただそれだけ。

やあ、今の気分はどうだい。ほら、また風が吹いてきたよ。

(全太)

1クラス4人までの少人数制学習塾



中野区本町2-50-12 ドエル中野201号
03-3379-1451



編集後記

からす新聞第二七号、無事、発行できました。新聞に限らず、これからも新企画目白押しなので、みなさんの御協力をお願いいたします。御意見・御要望をぜひお寄せ下さい。次号発刊予定日は二〇〇〇年八月二十五日です。編集協力者、特派員記者、及び、投稿を熱烈にお待ちしております。

来社見学を御希望の方は左記のところへ。
丸ノ内線新中野駅徒歩〇分

